

# Ceramic, Glass, and Metal Works



多摩美術大学 工芸学科  
学科パンフレット  
Tama Art University



2026



## Ceramic, Glass, and Metal Works

「工芸」を、多様な広がりを持ったモノ作りの  
姿勢を表す言葉として、私たちは捉えています。

モノを作り上げること。

それは人間が、生きるために古来より重ねてきた  
本能的・知的な行為であり、豊かな暮らしのための  
感動を伴う精神的行為です。

工芸学科では、素材と身体、そして思考とを連動させて  
「手でモノを作る」術（すべ）を学び、その根源的な力を養います。

この力は、今日の造形手段がますます  
デジタル化していく状況において、その<sup>いしづえ</sup>礎としての  
重要性が増しています。

学生は素材と向き合いながら、  
この時代に自分が作るべきものを  
仲間とともに模索し、見出していくでしょう。

作家である教員、充実した設備、そして  
60年に及ぶ多摩美の工芸教育の歴史が  
みなさんの学びを後押しします。



**METAL :**

銅版を少しづつたたいて  
地道に形を作りあげていく。  
一打一打大切にしないと  
形にはならないんだ。



**METAL :**

金属の性質として、展性と延性がある。  
形の変化が私の手の中でくりひろげられている。



**CERAMIC :**

なめらかな泥を作り出すには  
「水ガラス」という  
謎の液体を加える。  
適量を逃さないように  
気をつけながら。



**GLASS :**

ガラスを飴細工のように  
変形してつくる「ホットワーク」。  
溶けたガラスはこんなにも柔らかくなる。  
冷えて固まるまでの間に、素早くしなければ。



**METAL :**

コークスで火を焚き、その中に鉄の塊を突っ込んで熱するんだ。  
鉄がオレンジ色になったら、柔らかくなった証拠。  
火花が散ったら、それは鉄が溶けているサイン。  
溶ける前にたたいて形にしよう。

## SCENES FROM...

学生達の目線から

### GLASS:

炉の中の温度は、じつに1200度にのぼる。  
息を吹き込んで膨らます役割、  
ガラスが冷え固まらないようバーナーで熱する役割、  
ガラスを巻きつけた竿を回す役割。  
ひとつの作品を、みんなで協力してつくる。



### CERAMIC:

釉薬は灰や粘土、ガラス質や金属類まで  
いろんな物質が混ぜ合わさってできている。  
釉薬の調合は、まるで科学の実験みたい。



### CERAMIC:

石膏で作った型に材料を流し込み、  
しばらくすると型の形に粘土が固まる。  
ゆっくりと型を外す、緊張の瞬間。

### CERAMIC:

広い工房に同級生と集まり、  
窯に入れるとき、窯を開けるときのドキドキ感を  
いつも仲間たちと共有しながら過ごす。  
終わったあとの掃除の時間が、結局一番ほっとするかな。

# 「素材」、「身体」、「思考」が織りなすモノづくり

素材に触れる、観るを通して自分が確かに何かを感じていることを、陶、ガラス、金属で学ぶ。卒業生たちは4年間でこの意力を技術のうえに養い、様々なものづくりのジャンルで活躍していきます。

# 1



1st YEAR : FRESHMAN

## 素材の基本を知り、可能性を探る

1年次は陶、ガラス、金属を身体で感じながら、基本的な素材の扱い方と工程を学びます。窯詰やホットワークなど、同級生との共同作業を通して社会性も身につけながら、各素材の可能性を探ります。

- ◆ 陶では：まず「手びねり」、「ロクロ」、「型」といった代表的な技法の実践を通して、粘土からやきものへの素材の変化を確認しながら何を感じるかを自覚していきます。
- ◆ ガラスでは：熱く溶けた状態から冷えて固まるまでの変化に応じた多様なアプローチを体験し、その魅力を知りながら基本的な「扱いかた」を身につけていきます。
- ◆ 金属では：銀、銅、錫、黄銅、鉄に触れ、それぞれの素材に適した加工方法を体験することで、身体を通してものの道理を経験し、技法の魅力や意味を見出していきます。

CURRICULUMS



# カリキュラム

教育課程の詳細情報



## 2

2ND YEAR : SOPHOMORE

## 表現するところと技を磨く



2年次からは一つの素材を選択し、加工技術や道具、機械の操作方法などを詳しく学んでいきます。素材の扱いや知識を深めながら作品化への思考力を鍛え、表現するところと技を磨いていきます。

- ◆陶では:粘土にさまざまな素材を混ぜたり、複数の焼成方法を試したり、釉薬を自ら調合したりするようになります。できることが広がるにつれて、発想も豊かになっていきます。
- ◆ガラスでは:多様な手法を身につけていながら、ガラスのふるまいをしっかりと「見つめ」、そこにあらわれる「おもしろさ」からアイデアを引き出していきます。
- ◆金属では:作品制作の手となり足となる基本的な道具の制作を行い、加工法を身につけ、各自の自由な表現に繋げていきます。

## 3

3RD YEAR : JUNIOR

## 独自性を見出し、表現を社会にひらく



3年次ではアイデアの展開方法と、より高度な技術を習得して工芸の世界観を広げていきます。社会との連携を視野に入れながら表現力を養い、将来に役立つ表現を試します。

- ◆陶では:自身と素材との十全なやり取りによって表現を深めながら、その先に他者や社会を設定して見る人を巻き込むコンセプトとプレゼン力を鍛えていきます。
- ◆ガラスでは:ここまで見出してきたガラスの魅力を抛り所にして、個々に造形・表現への道筋を探りながら空間へのアプローチやデザインへの展開を行います。
- ◆金属では:各々が鍛金や彫金といった専門領域にフォーカスし、それぞれに技法、技術を身につけていながら、独自の造形思考を確立していきます。

## 4

4TH YEAR : SENIOR

## あなたの表現を打ち立て、卒業制作で結実させる



- ◆4年前期では自らのテーマを見出し、3年次までに習得した技術や思考法を駆使して独自の表現を確立します。
- ◆後期ではこれまで培ったつくる力と考える力を総動員して卒業制作に取り組みます。卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に作家、表現者としての第一歩。作品が未来を開いていきます。

## やわらかな無限の可能性

直接手で触って自由にかたちを作ることができる粘土。

ザバっとかけたり、霧を吹いたり、

絵を描くように筆で施すことのできる釉薬。

粘土も釉薬も自分でブレンドしてカスタマイズすれば種類は無限。

焼成では温度や窯の中の酸素量によって

焼き上がりをコントロールすることもできる。

そんな柔軟で、豊かな可能性を持つ

やきもの=「陶」という素材と身体（技術）、

そして思考（コンセプト）の連関を基に、

アートからデザインにまたがるものづくりの力を鍛え、

創造性を育みます。



PROGRAM : CERAMIC



# 陶

主な設備

電気窯 (6-50kw) | ガス窯 (1.0m<sup>3</sup> / 1.5m<sup>3</sup>)  
 移動式楽焼ガス窯 | パワーリフター  
 ホイストクレーン (1.5t) | 常圧式土練機  
 循環式土練機 | コンプレッサー | 釉薬集塵装置  
 攪拌機 | 乾湿両用掃除機 | 電動ロクロ  
 ポットミル機 | セラミック3Dプリンター  
 ◎窯にプログラムコントローラー設置

左: ガス窯 (1.5m<sup>3</sup>)

上級生になると1人で1作品を焼くことも。  
 二日間かけて 1250 度まで温度を上げる。



主な課題

1年次

積む・焼く  
 ロクロ  
 視覚以外  
 型  
 100kg



2年次

粘土ピース  
 質感  
 容器  
 用



3年次

場所  
 触  
 描く⇔立体  
 ロクロ  
 型



4年次

前期課題  
 卒業制作 (後期)

## ガラスはあやつれる？

重力・遠心力・表面張力・圧力などの力を理解し

そして利用しながら熱く柔らかいガラスを操るホットワーク。

同じく重力・表面張力などを利用し、電気炉の中に何らかの

仕掛けを施してガラスをくっつけたり形を変えたりするキルンワーク。

比較的ダイレクトに手で触れながら様々な道具を用いて

冷たく硬いガラスを切ったり削ったりするコールドワーク。

ガラスの状態に応じた多様な手法と、それにより生まれる

ガラスならではの魅力的なフォルムや表情を学びながら、

自身にとっての「ガラスで表現する」ということを

見つけてほしいと思っています。

PROGRAM : GLASS

# ガラス

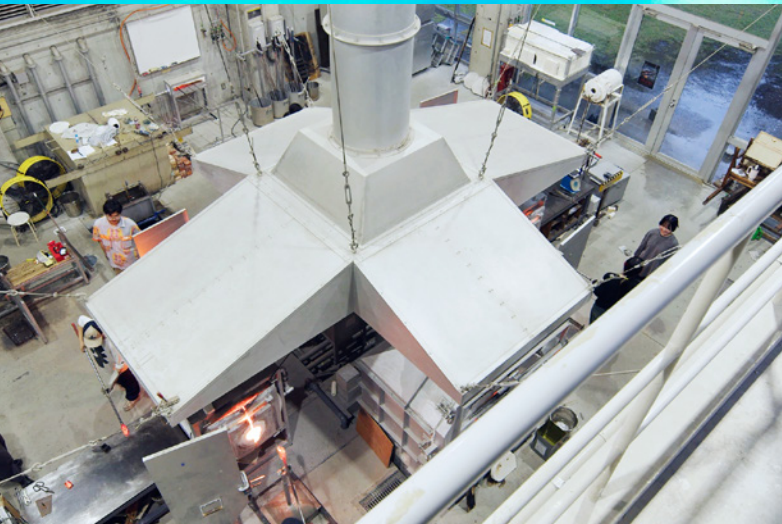


## 主な設備

溶解炉 200kg | グローリー | 徐冷炉  
 電気炉 200V / 100V | ハット式キルン  
 平盤研磨機 | 縦盤研磨機 | ウォーターサンダー  
 大型ダイヤモンドソー | 小割り切断機  
 サンドブラスト機 | 圧式サンドブラスト機  
 バーナーワーク用バーナー (エアー / 酸素)  
 グラヴィール機 | 版画用プレス機 | ボール盤

## 左: ホットワーク室

日本最大級の広さと設備。日々、同級生や先輩が  
 協力作業しながら作品を生み出している。



## 主な課題

## 1年次

ホットワーク  
 ドローイング  
 板ガラスを用いた造形  
 コールドワーク



## 2年次

フラットワーク  
 ホットワーク  
 キルンワーク  
 コールドワーク  
 アイデアデベロップメント



## 3年次

空間造形  
 デザイン  
 自由制作

## 4年次

前期課題  
 卒業制作 (後期)



## 金属を動かす・変化のさまを見る

金属を動かすには色々な方法があります。

叩く、伸ばす、溶かす、削る、曲げる、磨く。

単純で原始的な行為ですが、その過程をよく見ると、  
そこには刻々と変化していく金属の様子が見てとれます。

これを粘り強く繰り返す事で、金属材料を、  
思い描く姿に転化出来る様になります。

必要な道具を自分で作り、その道具で金属に伝えます。

すると、ゆっくり、少しずつ、金属が動きます。

そのさまを目で見て、体で感じて、  
自分の胸に訴えかけてくる出来事を探してください。

そして、なぜ訴えかけて来るのかを考え、  
その感動を形にして下さい。

PROGRAM : METAL



# 金属

主な設備

TIG 溶接機 | MAG 溶接機  
 エアプラズマ切断機 | ドイツ製エアハンマー  
 重油炉 | ガス炉 | コークス炉  
 シャーリングマシーン | コンタマシーン  
 当て金・木台 | スピニングマシーン  
 鍛金設備 | ガス溶接設備 | 彫金机

左: ガス溶接設備

手前で金属を熱し、溶かし、動かして接合する。



主な課題

1年次

真鍮板の造形  
 スイングカップ  
 すり出しリング

2年次

鉄鍛造  
 道具作り  
 鉄の溶接  
 回転絞り  
 蓋物  
 機械加工  
 変形絞り

3年次

TIG 溶接を利用した  
 鍛金技法  
 彫金技法  
 自由制作

4年次

前期課題  
 卒業制作 (後期)



## 専門家の育成

大学院とは、学生が作家を目指す場所ではなく、すでに作家が学生をしているような自立したものづくりの現場です。学部で見出したテーマに向かって実制作と論理的思考の両輪で進み、自らの表現を揺るぎないものにしていきます。

また、歴史や同時代の状況を踏まえながら自身の表現を社会化していくのもこの時期です。

大学院は博士前期課程（修士）2年と博士後期課程の3年からなります。高度な専門性を身につけ、生涯を通して作家や研究者の道を歩んで行くための確信を掴んでほしいと願っています。

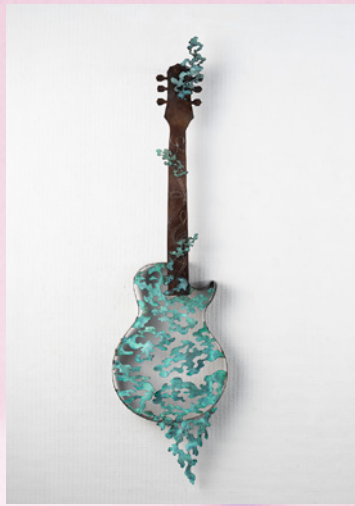


PROGRAM: MASTERS

# 大学院

大学院の課程／課題／活動

制作研究 | 修了制作  
修士論文・課題研究報告書  
指導的機会 (TA) | 学外授業  
主体的授業 (自らテーマを設定)  
個展開催支援 | 学外展示  
ゼミ活動 (学科内外)  
大学院生専用アトリエ







# CAREERS・MESSAGES

## ACADEMIC PATHS

主な進路

作家活動	陶作家 ガラス作家 金属作家 画家・美術家 ジュエリーデザイナー 各種デザイナー
公務員・財団	㈸かわさき市民活動センター 三田こども文化センター 富山市役所 北海道紋別市役所
教育	長岡造形大学 芸術工芸高等専修学校 多摩美術大学工芸学科研究室 屋久島おおぞら高等学校 筑波大学附属高等学校
進学・留学	多摩美術大学大学院博士前期修士課程 多摩美術大学大学院博士後期課程 東京藝術大学大学院 金沢美術工芸大学大学院 筑波大学大学院 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 茨城県立笠間陶芸大学校 富山ガラス造形研究所 東京ガラス工芸研究所 国立台湾大学 HAL東京 代々木アニメーション学院

## CAREER PATHS

主な就職先

広告・映像・メディア	㈸日本テレビアート ㈸フジテレビジョン ㈸博報堂プロダクツ ㈸ダダビ
玩具・ゲーム キャラクター	コナミデジタルエンタテインメント セガ バンダイサポート ㈸コーエーテクモホールディングス サンエックス㈸ ㈸スクエアエニックス ㈸サンリオ ㈸タカラトミー
その他デザイン	イー・エム・デザイン㈸ ㈸クレオ
アパレル	㈸ヨーガンルール ㈸シーズ・プランニング ㈸アルページュ ㈸サンゲツ ㈸丸昭 ㈸土屋鞆製造所
画廊	ギャラリーやまほん ㈸陶額堂
工房	あづみ野ガラス工房 ㈸猿江ガラス 軽井沢ガラス工房 DEPU㈸ 一東輪陶芸教室 菅原工芸硝子㈸
製造業	HARIO㈸ 自家窯陶郷ガラス工房 三協フロンテア㈸ ㈸鳥居製缶 興亜硝子㈸ ㈸ミキモト装身具 ㈸エフ・ディ・シー・プロダクツ ㈸ヴァンドームヤマダ ㈸大淵銀器 ㈸フィアロコーポレーション イケア・ジャパン㈸ ㈸パイロットコーポレーション ㈸ケイ・ウノ 日本山村硝子㈸ セイコークロック㈸
舞台美術・ディスプレイ	㈸シミズオクト 日本ステージ㈸ ㈸角川大映スタジオ 四季㈸ ㈸テレビ東京アート ㈸トーガン
小売・サービス	日本通運㈸(美術品事業部) ヤマト運輸㈸(美術品輸送) ㈸まんだらけ コーナン商事㈸ ㈸赤ちゃん本舗 ㈸世界堂 ㈸良品計画 ㈸ハンズ ㈸中川政七商店

## MESSAGES

工芸学科の卒業生は、工芸分野以外にもクリエイティブ分野の各方面で活躍しています。  
ここでは、受験生・後輩へ向けた、卒業生からのメッセージを紹介します。[卒業年順]



前野 達郎  
陶・2004年卒  
作家活動：陶芸家

学生生活の4年間は、自由に使える最後の時間です。自分のやりたい事をやって欲しい。やりたい事がわからなければ、興味のあることを何でもやって欲しい。そうするとやりたい事がわかると思います。楽しんで素敵な時間を過ごして下さい。



林 麻依子  
陶・2012年大学院卒  
作家活動：陶芸家

好きなこと、そして嫌いなことさえ、全てが創作の糧です。一緒に学ぶ仲間は、自分の選ばなかった可能性を見せてくれます。大学での学びを通じて、今の自身の基盤となる“らしさ”を見つけることができました。



宮下 サトシ  
陶・2016年卒  
アーティスト・陶作家



調子が良いときも悪いときも、作品が未熟で満足がいかないときも、自分がいま生み出した作品を受け入れて、愛してあげてください。その愛情は時間をかけて強く成長し、必ず返ってきます。それが作家にできる全てです。なんちって！楽しんで頑張ってください！



陣 めぐみ  
ガラス・2006年卒  
bubun (装身具制作)



日々手さぐりで素材と自分と向き合うことで、少しずつ少しずつ感覚に忠実なものができるようになっていった学生時代だったように思います。興味を持ったことはぜひとことんやってみてください。その経験が制作の礎となり作品の中に息づき続けるはずですよ。



高橋 漢・和田 朋子  
ガラス・2009年卒  
TOUMEI (ガラス工房)



よく学び、よく遊び、たくさんのお会いと経験をすることが学生時代にとっても大切な事だと思っています。多摩美にはいろいろな人がいて今となっては貴重な時間を過ごしました。皆さんが良い作品を作って豊かな人生を歩めるように願っています。



薄葉 純  
ガラス・2011年卒  
株式会社俄



新作ジュエリーの開発を担当しています。自分にとって「ものづくり」って何だろう。学生時代、大いに悩んだことが、今は大きな力になっています。たくさん手を動かし、納得する答えを探していきましょう。



長嶋 麻里子  
金属・2011年卒  
有限会社 ICHI



やりたい事はとことん挑戦して下さい。「自分は無理だ」や「不安だから」とためらい、可能性を狭めないで欲しいです。行動した上で自分をもう一度みつめること。積み重ねがいつかの自分の力へとなっていきます。



永瀬 二郎  
金属・2012年卒  
金工・道具・装置 作家



特殊な技術や素材感を身につけながら、おもしろいと思うものを自分の手で形にできることが、ますます意義深くなっていくと思います。役に立つかどうかはその人次第ですが、工芸学科で楽しいと感じることはほとんどやったほうが得だと思います。



加賀屋 諒  
金属・2014年卒  
株式会社  
クロコアートファクトリー



学生時代に得た「知識・技術・人脈」は、将来まで自分の支えとなります。学科や専攻にとらわれすぎず、新しい事を吸収することが重要です。そのためにも金属という応用性の高い素材の加工を学び、アドバンテージを得られることは、とても有意義だと思います。



秋本 風香  
金属・2020年卒  
二戸地域おこし協力隊  
うるしびと



岩手県二戸市浄法寺町で地域おこし協力隊として漆掻き職人をやっています。多摩美程の工房を使える機会は卒業後そうそう無いと思います。学生の内にいっぱい入り浸って、工具も工房も先生も使い倒しちゃいましょう。

# FACULTY

## CERAMIC

### 陶プログラム・専任教員



尹 熙倉  
教授  
美術家



1985年多摩美術大学大学院修了。1995年文化庁芸術家在外研修でイギリスに一年間滞在後、翌年再渡英、レンガ工場で作品を制作。在学中より美術家として、美術館、画廊などで「陶・存在・空間」を主題に立体・平面作品の発表を重ねる。近年は建築空間への作品設置計画に多数参加。「陶で作る力。発信する力。生きる力。」



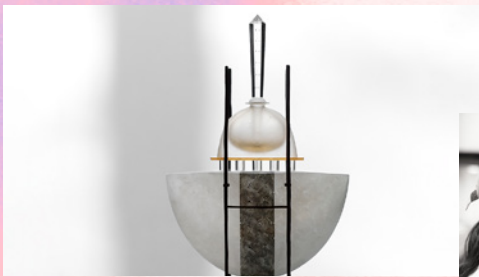
塩谷 良大  
准教授  
造形作家



多摩美術大学工芸学科陶プログラムで「やきもの」を経験して以来、手でものをつくり、考えることで社会と関わってきました。身体を介する造形体験は、あなたに独自の視点で世界を捉える力を与えてくれることでしょう。2011年度文化庁芸術家在外研修員としてイタリアで活動。既存の枠にとどまらない表現を試みている。

## GLASS

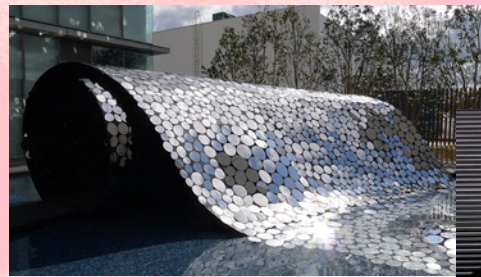
### ガラスプログラム・専任教員



馬越 寿  
教授  
ガラス作家



1992年多摩美術大学クラフトデザイン専修（ガラス）卒業。在学中より、宙吹きにより造られたガラスを様々な手段を用いて切削し時には着色を施すことにより、「透明であること」と「表面があること」との闘ぎ合いあるいは按配の追求に取り組む。作り手がどんなアプローチをするかによって様々な表情を魅せてくれるのがガラスの魅力と思っています。



行武 治美  
教授  
ガラス造形作家



多摩美術大学立体デザイン科ガラス専攻卒業、米国 Rhode Island School of Design 大学院修了。2006年文化庁在外研修で米国のガラスデザイン設計会社及び構造設計会社にて研修。国内外の国際芸術祭へ出品。「工芸」の枠にとらわれない、ガラスという素材の持つ魅力を引き出し、既存の建築空間を容れさせる空間造形を手がける。

## METAL

### 金属プログラム・専任教員



手銭 吾郎  
教授  
鍛金作家



1994年東京藝術大学大学院鍛金修了。同研究室助手～講師として勤務する中、篋紋り技法と出会う。2006年文化庁芸術家在外研修で英国に1年間滞在。金属工芸における様々な地域・文化・素材（金属）・造形・技法が人を繋げている事にとっても魅力を感じています。



留守 玲  
准教授  
金属造形家



素材に起きていることを自分なりに解釈しようとする中で、発見の喜びを知りました。この工芸体験は、今も身の回りの様々な事にあたるとの勇気に繋がっています。

1976年宮城県生まれ。2002年多摩美術大学大学院修了。鉄溶接を主体とした作品を個展等で発表。自身の溶接観、さび観を提示。

VISITING PROFESSORS ・ 客員教授



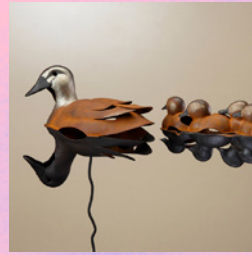
唐澤 昌宏  
国立工芸館工芸課主任研究員



関井 一夫  
鍛金作家



野田 収  
ガラス作家  
新島ガラスアートセンター館長



藤田 政利  
鍛金造形家



Rupert Faulkner  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館名誉フェロー/元日本美術担当上席学芸員

PART-TIME LECTURERS ・ 非常勤講師



糸賀 英恵  
金工作家



内田 望  
金属造形作家



川越 一日  
アートディレクター・グラフィックデザイナー



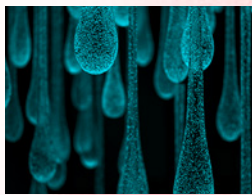
木越 あい  
ガラス作家



小林 淳一郎  
金属造形作家



佐々木 史恵  
ジュエリー作家



佐々木 類  
ガラス作家



佐藤 典克  
陶芸家



澤田 将哉  
アーティスト・エディューケーター



鹿田 洋介  
ガラス作家



鈴木 仁子  
陶芸・ジュエリー作家



田中 雅樹  
ガラス作家



田村 悠  
ガラス作家



花塚 愛  
陶作家



林 茂樹  
陶造形作家



林 麻依子  
陶作家



松尾 一朝  
ガラス作家



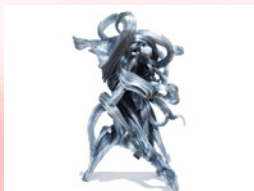
森田 春菜  
陶作家



山本 麻世  
美術家



湯口 萌香  
美術家



横山 翔平  
ガラス作家





Ceramic, Glass, and Metal Works  
official booklet 2026

多摩美術大学 美術学部 工芸学科  
学科パンフレット 2026

編集 多摩美術大学 工芸学科研究室  
撮影 岡本香音・野村知也・末正真礼生  
齋城卓・鳥山耀太  
デザイン 鳥山耀太  
印刷 プリンティングイン株式会社  
製本 株式会社シュウエイ

多摩美術大学 美術学部 工芸学科  
192-0394 東京都八王子市鎌水2-1723  
Department of  
Ceramic, Glass, and Metal Works,  
Tama Art University  
2-1723 Yarimizu, Hachioji, Tokyo, JAPAN

資料請求

<https://www.tamabi.ac.jp/request/>  
教務部入試課 TEL.042-679-5602

# Ceramic, Glass, and Metal Works

多摩美術大学 工芸学科  
Tama Art University

2026



<https://kougei.tamabi.ac.jp/>